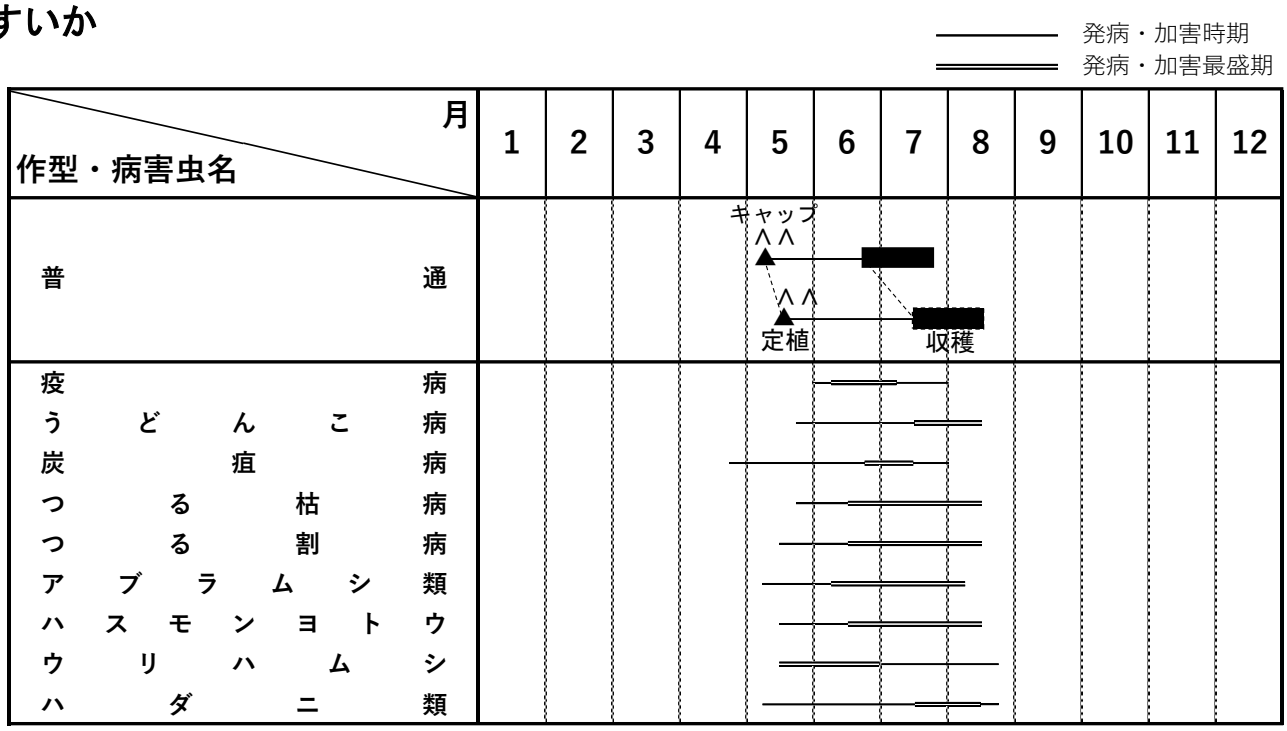
すいか



疫病

留意事項

1 発病適温は24℃前後、多雨で発生が多い。
2 ジマンダイセン水和剤はかぶれに注意する。

防除方法

1 連作を避ける。
2 床土は、新しいものを使う。
3 定植時､株元を高くして浸冠水を避け、排水に努める。
4 わらやポリフィルムでマルチングを行う。わらは、なるべく厚くし、うね間につるや果実が落ちないようにする。
5 肥料切れしないように肥培管理に注意する。
6 ウリハムシ、コオロギなどの加害部から発病することが多いので、これらの防除を徹底する。
7 被害株を早めに抜きとり、ほ場外へ持ち出し処分する。
8 かぼちゃ台木に接木を行う。
9 苗床、本ぽを土壌消毒する。
10 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。

・ジマンダイセン水和剤 ＜Ｍ３＞【400～600倍　7日／7回】
・Zボルドー ＜Ｍ１＞【500～800倍　発病前～発病初期／ー】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

うどんこ病

留意事項

1 ベルクート水和剤は、眼に刺激性があるので眼に入らないよう注意する。また、皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。
2 乾燥条件で発生しやすいため、施設やトンネルで多発しやすい。
3 SDHI剤≪７≫は、耐性菌が出現しやすいので1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 肥料切れしないように肥培管理に注意する。
2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
・ベルクート水和剤　＜Ｍ７＞【1000倍　前日／4回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・トリフミン水和剤　＜３＞【3000～5000倍　前日／5回】
・ケンジャフロアブル　≪７≫【1500倍　前日／3回】
・フルピカフロアブル　＜９＞【2000～3000倍　前日／4回】
・**気門封鎖剤**　＜－＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

炭疽病（たんそびょう）

留意事項

1 気温22～24℃で多湿のとき発病しやすい。
2 予防散布が大切である。
3 台木のゆうがおは、本病の発生源となりやすいので注意する。
4 QoI剤≪１１≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
5 ダコニール1000、ダコニールアルファに含まれる成分TPNの総使用回数は、5回以内なので注意する。
6 ベルクート水和剤は、眼に刺激性があるので眼に入らないよう注意する。また、皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。

防除方法

1 連作を避ける。
2 排水を良好にする。
3 降雨による土壌のはね上がり防止のために、わらやポリフィルムでマルチングや雨よけトンネルをする。
4 収穫残さを敷わらとともに処分する。
5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
・ダコニール1000　＜Ｍ５＞【700倍　3日／5回】
・ダコニールアルファ　＜Ｍ５＞【2000倍　3日／5回】
・ベルクート水和剤　＜Ｍ７＞【1000倍　前日／4回】
・セイビアーフロアブル20　＜１２＞【1000倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 ＜１＞【2000～3000倍　前日／5回】
・スクレアフロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／3回】

つる枯病

留意事項

1 発病適温は24℃前後、多雨で発生が多い。
2 予防散布が大切である。
3 ダコニール1000、ダコニールアルファに含まれる成分TPNの総使用回数は、5回以内なので注意する。
4 アミスター20フロアブルは、薬害の恐れがあるため、浸透性を高める展着剤を加用しない。
5 QoI剤≪１１≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 連作を避ける。
2 排水を良くする。
3 株元を高くして、特に株元の地際部へのかん水を避ける。
4 収穫残さを敷わらとともに処分する。
5 わらやポリフィルムでマルチングする。
6 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を予防的に散布する。
・ダコニール1000 ＜Ｍ５＞【700～1000倍　3日／5回】
・ダコニールアルファ ＜Ｍ５＞【2000倍　3日／5回】
7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 ＜１＞【2000～3000倍　前日／5回】
・アミスター20フロアブル ≪１１≫【2000倍　前日／4回】
・トリフミン水和剤 ＜３＞【3000倍　前日／5回】
8 発病を認めたら下記の薬剤を病患部に塗布する。
・トップジンMペースト ＜１＞【原液　発病初期／5回】

つる割病

留意事項

1 地温20℃以上で発生が多い。
2 接木栽培では、穂木の自根が発生しないように注意する。

防除方法

1 発病地では数年間作付を避ける。
2 石灰質肥料を施して、土壌酸度を矯正する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 すいか及びすいかの接木用のゆうがおを下記の薬剤で種子消毒する。
・ベンレートT水和剤20 ＜Ｍ３＞ ＜１＞【乾燥種子重量の0.4%を粉衣　は種前／1回】
4 被害株は速やかに、ほ場外へ持ち出し処分する。
5 かぼちゃ台木に接木することにより発生が減少する。
6 苗床、本ぽを土壌消毒する。（ⅩⅢ土壌消毒　2土壌病害虫等を対象とした薬剤による土壌消毒（4）　参照）
・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ＜－＞
【20～30kg／10a　均一に散布して土壌と混和　は種または定植21日前／1回】

モザイク病

留意事項

1 生育初期の感染による被害が大きい。
2 主なウイルスはキュウリモザイクウイルス（CMV）とカボチャモザイクウイルス（WMV）である。
3 汁液でも伝染する。

防除方法

1 苗床は寒冷しゃで被覆し、アブラムシ類の侵入を防ぐ。
2 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項　参照）
3 被害株は抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。

アブラムシ類

留意事項

1 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は4回以内（但し、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、定植後の株元散布は1回以内、散布は2回以内）。

防除方法

1 下記の薬剤を施用する。
・スタークル粒剤、アルバリン粒剤 ＜４Ａ＞
【ワタアブラムシ　2g／株　株元散布　育苗期／1回】または
【ワタアブラムシ　2g／株　植穴土壌混和　定植時／1回】
・モベントフロアブル ＜２３＞
【500倍　かん注（25～50ml／株）　育苗期後半～定植当日／1回】
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞【4000倍　前日／3回】
・トランスフォームフロアブル ＜４Ｃ＞【2000倍　前日／3回】
・ウララDF ＜２９＞【2000～4000倍　前日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ハスモンヨトウ

留意事項

1 薬剤抵抗性を生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・トレボン乳剤 ＜３Ａ＞【1000倍　3日／3回】
・ディアナSC ＜５＞【2500～5000倍　前日／2回】
・プレオフロアブル ＜ＵＮ＞【1000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ⅸ野菜類の病害虫防除　3野菜類　参照）

ウリハムシ

留意事項

1 年1回の発生で5～6月頃に成虫が現われる。

防除方法

1 植付け後にキャップで被覆し、成虫の飛来を防ぐ。
2 シルバーポリフィルムによるマルチを行う。
3 幼虫の食害防止に下記の薬剤を植付時に施用する。

・ダイアジノン粒剤3 ＜１Ｂ＞
【ウリハムシ幼虫　6～9kg／10a　土壌混和　植付時／1回】

4 成虫に対して下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【4000倍　3日／3回】
・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】
・マラソン乳剤 ＜１Ｂ＞【1000倍　前日／6回】

タネバエ

留意事項

1 未熟堆肥などを施用すると発生しやすい。

防除方法

1 は種時または定植時に、下記の薬剤を施用する。

・ダイアジノン粒剤3 ＜１Ｂ＞【5～8kg／10a　土壌混和　は種時または植付時／2回】

ハダニ類

留意事項

1 高温時に発生が多い。
2 薬剤抵抗性を生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

行う。

防除方法

1 下記の薬剤を施用する。

・モベントフロアブル ＜２３＞

【500倍　かん注（50ml／株）　育苗期後半～定植当日／1回】

2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スターマイトフロアブル ＜２５Ａ＞【2000倍　前日／1回】

・コロマイト水和剤 ＜６＞【2000倍　7日／2回】

・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞【1000倍　前日／1回】

・カネマイトフロアブル ＜２０Ｂ＞【1000～1500倍　前日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。